



■第1編 序論



1

基本構想の変更と後期基本計画策定の趣旨

第6次総合計画は、平成29年度から10年間のまちづくりの基本方針であり、本市ではその基本構想に基づいて5年間の前期基本計画を策定し、まちづくりの目標「みんなでつくる 住みやすさが実感できるまち いるま」に向かって市政を進めてきました。

この5年を振り返ると、我が国においては、持続可能な開発目標（SDGs）の浸透、デジタル・トランスフォーメーション（DX）の進展、新型コロナウイルス感染症の感染拡大など、社会の大きな変化が生じました。このことを踏まえ、令和4年度に開始する後期基本計画を策定するに当たっての背景と課題を改めて捉え直し、基本構想についても見直すこととしました。具体的には、計画の基礎となる将来見通しを時点修正したうえで、施策の全体方向として示している「土地利用構想」、「計画の基本的視点」、さらに分野ごとの今後のまちづくりの方向性、目標をまとめた「施策の大綱」を変更しました。

以上を踏まえた後期基本計画は、10年間の第6次総合計画の後半5年間の市政の方向を示すものとなります。前期基本計画における施策の方向性を基本に、これまでの施策や事業の進捗状況、それらについての評価（市民意識調査や市政意向調査の結果）、社会状況の変化や現在の財政状況を踏まえて策定しました。また、市の人口減少対策である「まち・ひと・しごと創生総合戦略」についても、後期基本計画と一体として策定し、施策を効果的に実施することを狙っています。引き続き「みんなでつくる 住みやすさが実感できるまち いるま」の実現を目指し、各施策への取組を進めてまいります。



2

市勢の概要

埼玉県の西南部に位置する本市は、都心から40km圏にあり、東は所沢市、西は飯能市と東京都の青梅市、南は東京都の西多摩郡瑞穂町、北は狭山市にそれぞれ接しています。

市域全体は、海拔60メートルから200メートルのややなだらかな起伏のある台地と丘陵からなっています。市東南端と西北端には、それぞれ狭山丘陵と加治丘陵があり、市域の約10分の1を占める茶畑とともに本市の豊かな緑を形成し、また、市域の西北部には荒川の主流である入間川が流れ、中央部に霞川、南部に不老川といった市内を東西に流れる3本の河川とともに自然的な景観を形作っています。また、市域の東北部には、狭山市・入間市域にまたがって航空自衛隊入間基地が所在していることも、本市の地形的な大きな特徴となっています。

交通の面では、鉄道駅として西武池袋線の4つの駅とJR八高線の金子駅があり、主要道路としては一般国道16号をはじめ、国道4路線と県道9路線があります。さらに1996年（H8）には圏央道（首都圏中央連絡自動車道）が開通し入間ICが国道16号と接続したことで、その後の圏央道の整備拡張に伴って、首都圏へのアクセスのみならず広域的にも利便性の高い交通網が形成されています。

主な産業のうち、農業は県下最大の狭山茶の産地であり、サトイモや露地物野菜類の生産も盛んです。工業では、伝統ある繊維産業をはじめ、昭和40年代からの工業団地造成等により電気、機械工業を中心とした幅広い分野の産業が分布し、近年は先端技術産業など付加価値の高い業種の企業も増えつつあります。商業では、平成年代以降、入間市駅周辺が整備されて中心市街地の商業的な核として位置付けられたほか、区画整理事業の進捗に伴って武蔵藤沢駅周辺にも出店が進んでいます。さらに近年は、郊外型大規模店舗が進出し、2008年（H20）に圏央道入間IC近くにオープンした大型アウトレットモールには広域から多くの来場者が集まるなど、新たな入間市の顔ともなっています。

近隣市である所沢市、飯能市、狭山市および日高市とは、「埼玉県西部地域まちづくり協議会（ダイアプラン）」を構成し、公共施設の相互利用やイベントの共同開催など、さまざまな面で連携を図り、地域全体の視点からまちづくりを進めていることも大きな特徴です。

目指すべきまちの姿として「香り豊かな緑の文化都市」を掲げ、首都圏にあって変化に富んだ自然と、その中で育まれる文化やコミュニティ活動の豊かさが本市を支える大きな特色となっています。

面積	44.69平方キロメートル 東西幅 9.3km 南北幅 9.8km 海拔最高点 203.5m 最低点58.3m
人口	総人口 146,419人（令和3年10月1日現在） 世帯数 66,873世帯（ ” ” ）
鉄道	西武池袋線 4駅（武蔵藤沢駅・入間市駅・仏子駅・元加治駅） ※市境にある稲荷山公園駅も市民は利用している JR八高線 1駅（金子駅）
道路	首都圏中央連絡自動車道 1路線 国道 4路線（16号・299号・407号・463号） 県道 9路線 市道 4,613路線（令和3年4月1日現在）